
流星のロックマン4 ~ ?? mystery ~

nasubiboy

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン4

?? mystery

【Zコード】

Z4615Z

【作者名】

nasubiboy

【あらすじ】

地球の危機を3度も救ったロックマンこと星河スバル。彼が中学生になるころ事件は起きた・・・WAXA調査隊の謎からすべてが始まる。謎の大陸とは? 閻の組織の計画とは? すべての謎が解けた時、組織の計画とムー大陸滅亡の謎が解ける! 交錯する想いと運命の中でスバルは世界を救えるのか?

記念すべき(?)なすびの一作品!-(流星シリーズ知っていること前提で書いてますんで宜しく)

プロローグ ～WAXA調査隊～（前書き）

始まりました
馱文ですんません
これから100話目指して頑張ります

プロローグ SWAXA調査隊

ある謎の地

WAXA調査隊のリーダーは語った。

「リーダーこつこれは大発見ですよ！すぐにWAXAへ連絡を」「ああ、勿論だ、これは人類史に残る大発見だろう。この大陸の

発見は人類の発展にとって・・・

とその思ふ事

「ニーダー」は「ニーダー」の略語で、ニーダーの略語。

・・・・・ポセイドン？・・・・・

プロローグ ～WAXA調査隊～（後書き）

感想よろしく
・・・

中学校の準備（前書き）

やつとい、学校終わりました

中学校の準備

「こ」は「ダマタウン、ロックマン」と星河スバルが暮らしている。

「……」「……」

『おーいスバル起きる……！ 今日はスピカモールに買い物だろ！』

叫んでいるのはウォーロック。FM星育ちのAM星人だ。

「うーん……っはーいま何時？」

『8時半。約束は9時だぞスバル』

「やばーい！ 委員長に怒られる！」

朝「はん、着替えを風のよひに済ませ、ギリギリのところでバス停へ。

「スバル君おそいじゃないの。まあいいわ、それより、ゴン太よ！」

「この女の子は委員長こと白金ルナ。あだ名のとおり小学校では委員長をやっていた。

中学校へ行つてもやるつむららしい。

「ゴン太君、また牛丼ですかね。朝から牛丼つて」

「この小人のような少年は最小院キザマロ。マロ辞典を使いこなす

物知り。

「ははは、違いないね」

と、スバルが笑つてゐるところで奥から走つてくる人影。あれがゴン太、よく食べ、よく遅刻する。

「「めん委員長。なんせ朝の牛丼が・・・」

「行くわよ。もう一」

と、一行はスピカモールへ中学校で使う物を買いに行くのだった。

そして…スピカモールについた。

「ふひ～。まずは教科書のプログラム取りにい」

「えつ、まずは牛丼」お黙りゴン太！スバル君の言つとおりにしなさいー！」

というわけでプログラムやら、制服やら、靴やら、（ゴン太は牛丼用の紅ショウガも）を買った。

「よし買い物終わりね。つぎは・・・」

「委員長ーお楽しみのあれですよ」

「やつだぜー」のために朝牛丼食つてきたんだから」

「えっ？ なに？ なにがあるの？」

「まつまさか！ スバル君、ミンラちゃんのライブのチケット持つてない？」

「え~~~~~。今日ライブって聞いてないよ。キザマ口教えてよ」

「スバルはライブなしだな。可哀そう。」

『ふつうのマイだなスバル』

「うわ~。ブロガーのへせにわされるなんて。スバル君」

そしてライブ一時間前、スバルだけ帰宅となつた・・・

「はあ~。ミンラちゃん怒つてるかな？ ライブ来てねーって言われてたし・・・」

『お前が悪いな。まあ帰るしかねーだろ』

とスバルは帰宅することになつた

中学校の準備（後書き）

長いか？まあいいでしょう

ライブ前・・・（前書き）

ふう、連投で あ、後ここら辺戦闘ないんで

ライブ前・・・

バス停にスバルがいた時に電話がきた

「ん? だれだろ? ブラウズ!」

「す~ば~る~く~ん!~!~なんでライブ会場に~ないの~来てつ
て言つたよね!~」

この女の子はトップアイドルで「自称戦うアイドル」、響ミン
ラ。電波変換でハープノートになる。

「~めん!~・~・~（忘れてたなんて言えないし、ビリしそ~あ、そ
うだ!~）チチチケットが売り切れて~てそ~・~・~」

「はあ~。スバルくん、忘れてたんでしょ~・~・~特等席用意して
るつてメールしたじやん」

「えつ、じゃあライブ見られるの~・~やつた~ 今すぐ行く

「今ビリ~るの~できれば楽屋に来てほしこんだけど

「いま、スピカモールのバス停だからすぐ行くよ

「うん 早く来てね~」

というわけでスバルもライブを見れることとなつた。

そして樂屋。

「失礼します。あ、ミソラちゃん久しぶり！」

「何が久しぶりよー。ライブ忘れてたくなー。」

「（まことに怒ってる）『めんーほんとに』」

「ふふつ、怒つてないよ 演技」

「え、怒つてないの。（よかつた）」

『おー、ミソラ。お前がいるつてことは・・・』

『何よ人を悪党扱いして、ウォーロック』

『つげ、出たハープ』

ハープとは、FM星人でミソラのパートナーである。

「スバル君、あと一時間半くらい時間あるし。モールまわんない？」

「いいよ、（ライブ忘れてた貸しがあるし・・・）どうこう？」

「うーんと・・・とりあえずパフュ食べて、それから駄菓子屋に・・・

・

データ氣分の一人であった。そしてライブ直前まで飛ぶのであつた。

ライブ前・・・（後書き）

次はライブですね

ライブ！（前書き）

戦闘しばらくないつて言ってたけど 次やる予定だったんでした
すんません

ライブ!

「みんな～！ 来てくれてありがとう！ 盛り上がりいくよ～」

「委員長始まりましたよー！」

「ゴン太！うるさい！」

委員長グループは一番前の列。と、言うのもキザマロがチケット発売日前日から店に並んでいた

少し離れて、舞台裏。ここにスバルはいた・・・

「うわー。横から見ると違うねー
こんな近くで見られるなんて！」

「そ、うだな！ でも俺は見れないわ・・・」

「なんで口ツク？」

『いや・・・ハープが・・・』

『お呼びかしら? いくわよつ』

いやだー！助けてくれスバル！う、ウワーッ

地球は救えても、ロックを地獄からは救えないスバルであった・・

・
そんな時・・・

「ドガーン！――！」

「ばつ爆発？ロック行こう、っていいか？」

『おう、いるぜ。逃げてきた』

「んじゃ行くよ、トランスポート003、シューティング・スター・ロックマン！」

ウーブロードに行くと、ジャミンガーがいた。

『所詮クズか、久しぶりの戦闘腕がなるぜ！』

「ロックはいつも勝手にウイルス撃退してるじやん！」

『ロックマンとしての戦闘だよ、ひさしひりなのはー。』

「じぐよー・ロック」

『おうー。』

ライブ！（後書き）

次はジャミングガーリー戦 余裕です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4615z/>

流星のロックマン4 ~ ?? mystery ~
2011年12月16日17時52分発行